

HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム 科目概要

①ソーシャルクリニックと地域

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター
センター長 齋藤 征人

1. 科目の概要

本科目では、ソーシャルクリニック・モデル(地域の課題を適切に捉え、解決策を検討し、解決へ向けて試行・実践する一連のプロセス。地域と大学との協働によって取り組んでいく地域課題の診療過程)とその実践事例を通じて、地域づくりや観光まちづくりの現場で主体的に行動し、地域の活性化・再生に取り組むための方法を学びます。

2. 授業の実施経過

授業は、受講人数と会場およびゲストスピーカーの都合から遠隔授業としました。具体的には、Zoomによるオンライン授業を原則とし、ゲストスピーカーの回については、受講者は予め動画視聴し、その後Zoomで感想や気づき、学びを共有しました。ゲストは、日頃から地域課題の解決や魅力発見・発信に取り組んでいる、地域の「イノベーター」たちです。

回	月/日	実施方法	内容	講師
1	10/ 5	Zoom	オリエンテーション	齋藤
2	10/12	Zoom	ソーシャルクリニックの基礎 (巡回型サテライト・オフィスを含む)	齋藤
3	10/19	YouTube	観光と地域振興 (その1)	奥平
4	10/26	YouTube	観光と地域振興 (その2)	奥平
5	11/ 2	YouTube	情報発信の基礎① (その1)	溝手
6	11/ 9	YouTube	情報発信の基礎② (その2)	溝手
7	11/16	Zoom	情報発信の基礎③ (その3)	溝手・齋藤
8	11/30	YouTube	地域づくり支援の実際 (厚真編)	草野・水谷
9	12/ 7	Zoom	地域づくり支援の実際 (森編)	戸田・森
10	12/14	YouTube	地域づくり支援の実際 (厚沢部編)	荒木
11	12/21	YouTube	地域づくり支援の実際 (八雲編)	赤井
12	1/ 4	Zoom	地域における実践演習の成果と課題	齋藤
13	1/11	Zoom	ソーシャルクリニックの作法	齋藤
14	1/18	Zoom	奥尻高校における地域課題解決の取り組みと課題	齋藤
15	1/25	Zoom	後期のまとめ・試験	齋藤

3. ゲストスピーカーの声

〈1〉溝手 孝司 先生

(株式会社ユータスネット・代表取締役)

齋藤征人センター長から「『ソーシャルクリニックと地域』のゲストスピーカーをしてほしい」と依頼を受けたのが今年の春。「わかりました」と即答で引き受けたものの、そもそもソーシャルクリニックって何?と後でこっそり検索サイトで調べて、北海道教育大学函館校が作った言葉だと知りました。

何を話せばいいのだろう?地域をクリニックと考えているうちに私の頭に浮かんだのはプロデュースという言葉でした。地域活性化のためにゆるキャラを作る。町を活性化するために新しいイベントを行う。地元の名産品を全国に広める。などなど。

私の思う地域論やプロデュース。それから広告代理店という仕事柄、出会ったある地域の話や裏話、オフレコなど、思いつくままに喋らせていただきました。

これまで大学で講義は何度か体験しましたが、オンラインは初めて。学生の顔が見えない中で喋り続け、伝わるのかなという不安が多かったのですが、学生から送られてきた授業の感想、レポートを読んでしっかり伝わっていたと安心しました。そして私が話したこと以上に深い考えを持った意見も届き、読んでいて私自身も感心したり考えさせられたりしました。

終了後「また来年も」と社交辞令で言っていただけでしたが(笑)、もし次年度もご依頼いただければ、次回は学生の顔を見ながら話したい。そう思っています。

〈2〉小山 知倫 先生

(北海道奥尻高等学校・教諭)

本校では、島全体を一つの「学び舎」と見立て、生徒が地域と関わる探究活動を通して学ぶ「まなびじま奥尻プロジェクト」を推進しています。

このプロジェクトの代表的な取り組みとしては、①奥尻の地域課題を各分野のプロフェッショナルから学び、その解決策を立案・実行する「町おこしワークショップ」②奥尻の海の魅力を感じるとともに、自然や防災の大切さについて学びながら、水産資源への理解を深める「スクーバダイビング」③奥尻の魅力について調査し、方法も含めて検討して発信する「奥尻パブリシティ本部」があります。

今回「ソーシャルクリニックと地域」で本校生徒がこれらの取り組みについてプレゼンテーションを行い、地域の課題解決に関わる情報を共有させていただきました。大学からは、様々なアイデアをご提示いただき、生徒の活動が大学の知的資源と結び付くことで、今後の発展の可能性を見出すことができました。今後、本校での取り組みがソーシャルクリニックの活動と繋がり、町内だけではなく他の市町村や道外に地域課題解決の輪が広がっていくことを期待しています。